

うわじま 牛鬼 うしおに

市立宇和島病院の理念

- 一、信頼される病院
- 二、思いやりのある病院
- 三、やすらぎのある病院
- 四、進化しつづける病院
- 五、地域になくてはならない病院
をつくります。

市立宇和島病院の基本方針

- 1、いつでも、どんな病気にも、高度医療を提供する病院をめざします。
- 2、患者さまの権利を尊重し、愛情と対話をもってあたたかい医療を提供する病院をめざします。
- 3、快適な医療環境をととのえ、明るくうるおいのある病院をめざします。
- 4、高い技術を持ち、人間性豊かな医療人の育成につとめる病院をめざします。
- 5、医療・保健・福祉との連携を深め、地域で完結する医療に貢献する病院をめざします。



市立宇和島病院ホームページ
<http://www.uwajima-mh.jp>

患者さまの権利

1. 良質で適切な医療を平等に受けることができます。
2. 自分の状態や医療行為について十分理解できるまで説明を受けることができます。
3. 医療者から十分理解できるまで説明を受けた上で、自由意思に基づき医療行為を選択あるいは断ることができます。
4. 主治医より受けた診断・治療方針について他の専門家に意見を求める場合は、セカンドオピニオンを利用することができます。
5. 自分の医療に関する記録などの情報について、開示を求めるすることができます。
6. 個人のプライバシーは保護され、いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
7. 患者さまの診療・治療について当院の教育・研究にご協力をお願いする場合がありますが、これを断ることができます。
8. 病院に対し種々の提言をすることができます。

病院事業管理者 市川 幹郎



あけましておめでとうございます。
市立宇和島病院職員の皆様には地域医療を守るために多大のご貢献を頂き厚く御礼を申し上げます。申し上げるまでもなく、宇和島病院は四国西南地域の基幹病院として地域住民の安全と安心を担っています。特に年々地方市町での自治体病院の運営は厳しくなり、診療科の縮小・閉鎖が進み宇和島病院の負担が増大している中で、地域医療を守って頂いていることに感謝致しています。

これからは急速に進む高齢化社会で、2025年の人口動態等をみえた地域医療構想が各都道府県で策定され、それに基づき都道府県主導で、これまでのよう病院単独ではなく、地域で病院・介護施設等の医療機関が連携して必要な医療・介護を行う事になります。

良質な医療を行うためには健全な病院経営が基本となります。保険診療の医療は公定価格のため診療報酬は国家財政に左右され、国家財政は世界の政治情勢で大きくかわります。現在国は増え続ける医療費の抑制策を検討中で、今後医療費の増大は厳しいと考えます。今後も公立病院が信頼される医療を継続するためには職員一人一人が意識改革を行い、全職員が病院経営のプロとして、どうすれば地域で生き残れるかを考える必要があります。

宇和島病院はこれまで幾多の困難な問題を克服しながら、職員・行政・住民が創意工夫し創立の理念にそって生き残ってきました。地域医療は住民の安心、安全のみならず、地域の文化を守る基本です。皆様には引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。

市立宇和島病院院長 梶原 伸介



新年あけましておめでとうございます。
2016年もごたごたがありながら、何とか過ぎ、2017年を迎えることとなりました。当院には大きな変化はありませんが、放射線治療の機械が新たになり、今までよりもより精密で、治療効果の高い治療が出来るようになりました。放射線治療の専門医も増員となり、がん診療連携拠点病院としてより充実した治療が出来るようになりました。

また地域医療支援システム「きさいやネット」が浸透し、アクセス数は1ヶ月1000件を突破するようになりました。このことは他の同様なシステムを導入した地域と比較すると、特記すべきことで、6月1日の電波の日には「四国総合通信局長表彰」も受けました。これにより地域の先生方との連携がより強固となり、無駄が省け、よりスマートな治療に結びつくものと思われます。11月からは調剤薬局、訪問看護ステーションとも繋がるようになりました。さらに充実した連携が可能になりました。次のステップとして、南予全体にインターネットを利用した連携システムを構築したいと考えています。

来年度の当院で受け入れる研修医に關し、以前はほとんど募集定員に達するフルマッチでしたが、ここ2、3年、志望される研修医が少なく、非常に危惧していたのですが、久しぶりに6名の定員のところ、6名が当院を希望し、フルマッチとなり、ほつとしているところです。やはり若い力は病院全体に活力を与え、指導する医師にも刺激になり、いい循環になります。若い医師に希望してもらう病院作りを目指している私にとっては一安心できる出来事でした。

また今年も色々な問題が出てくるとは思います。一つ一つに立ち向かい、病院全体で、住民の皆様に役立つよう頑張り、南予の拠点病院として恥じない病院作りを目指したいと思います。

へき地医療貢献者表彰を受けて

院長 梶原 伸介

この度は、思いもかけず全国自治体病院協議会、自治体病院開設者協議会よりへき地医療貢献者表彰を受けました。当院のある宇和島市はへき地ではないとの思いは少しありましたが、私のこれまでの活動を高く評価していただき非常に感謝しています。今回の受賞を期に私の当院での歴史を振り返り、一筆啓上致します。

私は元々、愛媛県大洲市の出身であり、大学を卒業と同時に愛媛に帰つて来ました。当時(1976年4月)は愛媛大学医学部に附属病院はまだ開設されておらず、医局より、市立宇和島病院はどうかと言われ、赴任することとなりました。しかし、現在のような研修医制度はなく、何も知らない、何も出来ない、また自分の病院の医師でもない新人ドクターを、何の差別もなく、他の若手ドクターと同じように接していただき、多くの症例を当てていただいたことは本当に勉強になりました。このときの体験がその後の私の医師としての生きる道の基本となりました。

その後大学に戻り、1980年より今度は正式に宇和島市の職員となり外科医として赴任しました。

その頃は少しずつ外科手術が解ってきた頃で、手術するたびに新しい発見があり、毎日毎日、自分が伸びていくのが実感できる頃でした。

手術に明け暮れる2年間を過ごした後、再び愛媛大学に戻り、外科医としての仕事と実験・研究に没頭する日々を過ごしていましたが、1984年に再度宇和島に赴任することとなりました。

私の外科医としての大きなターニングポイントは鏡視下手術の導入です。1990年に日本で始めて腹腔鏡下胆囊摘出術が開始され、当院でも導入しようと、当時浜松医科大学の助教授であられた木村泰三先生に教えを請い、浜松で勉強した後、1991年6月に第一例目の腹腔鏡下胆囊摘出術を施行しました。最初の1例目は今では信じられませんが306分もかかりました。

その後手術の対象も拡大し、1992年には胸腔鏡下肺切除術、1994年には肺がんに対する胸腔鏡下肺葉切除術、1996年6月には大腸がんに対する腹腔鏡下S状結腸切除術、1998年9月には食道がんに対する胸腔鏡下食道切除術を行い、1998年10月には胃がんに対し腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の手術を施行しました。

外科医として手術、救急医療に明け暮れる毎日でしたが、年月を重ねる中で、副院長、診療部長となり、改築にも携わるようになりました。当時の建物は相当古く、もし大きな地震が起きたら、まず当院が潰れるのではないかと心配していました。阪神淡路大震災を機に一気に改築の話が進み、2009年に震度7の地震にも耐えうる免震構造を有した、435床の病院を開院することができ、これで地震が来ても患者さまや職員の安全は守れるとひと安心したものです。

2010年に院長に就任し、看護体制はそのままDPCを導入、収益的にはずいぶん増加となりました。また看護師不足対策としては、奨学金制度を導入し、安定した看護師採用を行うことが出来るようになりました。

また、地域に開かれた病院を目指すという目的で、健康フェスティバルを毎年開催し、血管年齢、骨密度の測定、講演会、健康相談、備蓄食品の炊き出し、屋台等を行い、徐々に参加される住民の方も増え、地域に根づいてきていると感じています。

さらには、がん患者を偲ぶリレーフォーライフにも私の声かけで100名近い職員がボランティアで参加してくれるようになり、毎年開催される際には24時間、襷をつなぎ、もくもくと歩いています。

この表彰をきっかけに宇和島病院での34年を振り返ってみましたが、ここまで出来たのは周りの支えが大きかったのではないかと思います。当院が曲がりなりにも経営できているのは、昔より当院が当地域での「最終病院」であり、「我々がしないと誰がするのだ」という自覚、プライドを持って医療に勤しみ、全員が一丸となって地域の医療に邁進しているおかげだと思っています。

最後に当院のスタッフ全員および我妻、家族に「感謝」の言葉で締めたいと思います。

本当にありがとうございました。



梶原院長 石橋市長



当院の緩和ケアチーム



シリーズ | 看護部 だより

緩和ケア認定看護師 井上 幸子

当院は、平成17年にがん診療連携拠点病院に指定されました。がん診療連携拠点病院には、緩和ケアチームの設置が義務付けられており、早期からの緩和ケアが提供されなければならないとされています。

当院の緩和ケアチームは、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・社会福祉士・臨床心理士など様々な専門分野のスタッフで構成されています。毎週木曜日にチームカンファレンス、毎週金曜日には病棟ラウンドを行い、主治医や看護師などと連携しながら入院・通院中の患者さまの苦痛スクリーニングと症状緩和に努めています。

また、緩和ケア外来(金曜日 午前中／麻酔科:西田)も開設しており、緩和ケアチームとともに専門的緩和ケアを行っています。「がんの治療ができなくなつてから始めるケア=緩和ケア」と思われている方もいますが、現在は「がんと診断されたときから、つらさを和らげるケア=緩和ケア」と言われています。

「がん」という病名、「抗がん剤」などという言葉を聞くと不安になつたり動揺したりするのは当然のことです。当院は、疼痛緩和や抗がん剤・放射線治療、手術を受ける患者さま、積極的な治療をしなくとも患者さま・ご家族が安心して自宅等で生活できるよう、地域の病院、訪問看護ステーションなど関係医療機関等と連携を図っています。

今年度は、宇和島医師会を中心とした愛媛県在宅緩和ケア推進モデル 宇和島地区モデル事業に当院も参加登録し、地域の医療機関等と月1回の事例検討会・勉強会と在宅療養支援を行っています。

私達は、様々な状況にある患者さま・ご家族が大切にしていきたいことなどを一緒に考えさせていただきたいと思っています。

何か気になることがある方は、当院のがん相談支援センターにご相談ください。お待ちしています。

【問い合わせ先】 0895-25-1111 内線22022 地域連携室・がん相談支援センター

シリーズ
各科紹介

肝臓・胆のう・脾臓外科

肝臓・胆のう・脾臓外科 科長 渡邊 常太

肝胆脾外科は外科（消化器外科）のうち、肝臓、胆嚢、胆管、脾臓などの疾患に関する手術や薬物療法を含めた集学的治療を行う診療科です。その頭文字をとって「肝胆脾外科」と呼ばれています。通常の診療は外科のメンバーとともに外科全体で携わっています。

肝胆脾外科では、難治がんの代表といわれる肝臓、胆道（胆管、胆嚢、十二指腸乳頭部）、脾臓のがん治療を専門としています。肝臓にがんができれば直接命に関わり、胆道のがんでは黄疸になり小さながんでも命取りとなり、またおなかの最深部にある脾臓のがんでは血流やリンパの流れに乗り転移を起こしやすいなど、難敵です。これらの疾患は解剖学的な構造、およびその病態が複雑であり、その診療においてはきわめて専門的な知識、技術が必要となります。当科は、このような複雑で多岐にわたる疾患の外科診療のエキスパートとして、つねに努力を重ね、技術、知識を研鑽しております。

患者さまのお気持ちを十分に反映させた、患者さま中心の医療を行うように心がけております。また悪性疾患以外でも胆石症、胆嚢炎、胆道狭窄、脾炎などの疾患に対する外科治療も幅広く行っております。お気軽に何でもご相談ください。



肝臓の3D画像

振り込め詐欺防止表彰を受けました!

平成28年9月14日、宇和島警察署において振り込め詐欺防止に貢献したとして、当院、放射線科の石丸さん、防災センターの松花さんが表彰を受けました。

当時の状況は院内のATMを利用し現金を振り込もうとしていた方にお声かけをし、振り込め詐欺被害を上記2名の職員が防止したものです。

今後も振り込め詐欺被害防止のため、院内のATMの利用者に職員がお声かけをする場合もありますのでご了承くださいますようお願いいたします。

また、皆様におかれましては、振り込め詐欺等の被害に遭わないよう十分にお気を付けください。



左から、松花さん、片山総務管理課長、石丸さん

市立宇和島病院 イベント情報

当院では、地域に根差した活動の一環として、各種イベントを開催(参加)しています。



<7月28日 サマーコンサート>



<8月8日 和琴コンサート>



<10月30日 健康フェスティバル>

～平成28年度 イベント一覧～

- 7月22~24日 うわじま牛鬼まつり参加
- 7月28日 サマーコンサート
- 8月8日 和琴コンサート
- 9月25日 歌で心と身体をリフレッシュ
- 10月1~2日 リレー・フォー・ライフえひめ
- 10月30日 健康フェスティバル
- 11月14日 ブルーライトアップうわじま
- 12月16日 院内イルミネーション
- 3月18日 難病啓発講演会&コンサート

難病啓発講演会

&
コンサートのお知らせ

3月18日(土)13時~15時まで、きさいや広場市民ギャラリーで開催いたします。

当院医師の講演に引き続き、アンサンブルさくらさんによるコンサートもありますので、ぜひお越しください。

救急医療体制について

平成29年1月4日から、休日や夜間に病気やケガをしたときに受診する救急医療体制を、宇和島病院、独立行政法人地域医療機能推進機構宇和島病院(JCHO宇和島病院)、医療法人沖縄徳洲会宇和島徳洲会病院の3病院による輪番体制に変更します。

※愛媛県では愛媛の救急医療を守るために、143万人の県民の皆さんに医療機関や救急車の適切な利用を心がける“愛救143運動”を推進しています。

緊急の手術や入院が必要な重篤な症状の人は、これまでどおり市立宇和島病院で受け入れますが、比較的軽症の人は、次の輪番表を確認し受診してください。

なお、休日昼間の病気やケガの際、比較的軽症の人は休日当番医の医療機関での受診をお願いします。休日当番医については、広報うわじま「休日当番医」のページをご覧ください。

◎安心して救急医療を受診するためのお願い

休日や夜間の救急医療体制は、限られた医療スタッフで運営しています。今後も救急医療を継続していくには、救急医療に関わる医療スタッフの負担を少しでも軽減させることが必要です。

・日ごろから何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、早めに受診するよう心掛けましょう。

・お子さんの急な病気やケガで、心配なときは「小児救急電話相談【#8000】」をご利用ください。

誰でも、いつでも、安心して救急医療を受診できるよう、ご協力をお願いします。

医 療 機 関	毎週火曜日	医療法人 沖縄徳洲会 宇和島徳洲会病院 宇和島市住吉町二丁目6番24号 TEL:22-2811
	毎週木曜日	独立行政法人 地域医療機能推進機構 宇和島病院 (JCHO宇和島病院) 宇和島市賀古町二丁目1番37号 TEL:22-5616
	上記以外の日	市立宇和島病院 宇和島市御殿町1番1号 TEL:25-1111

※小児救急患者は、市立宇和島病院で受け入れ、対応します。

風邪に負けない野菜たっぷりレシピ 白菜しゅうまい丼



〈材料 1人分〉

●米飯	100g
●もやし	20g
●人参	20g
●チキンミンチ	40g
●塩	0.1g
●胡椒	少々
●白菜	100g
●片栗粉	10g
A { オイスターソース	10g
濃口醤油	3g
ゴマ油	2g
●ネギ	3g

- ① 白菜の葉はみじん切りし、レンジで1-2分加熱する。軸は5mm角に切る。
- ② チキンミンチ、白菜の葉、塩を混ぜ合わせ丸める。
- ③ 白菜の軸に片栗粉をまぶす。
- ④ ②に③をまんべんなくつける。
- ⑤ 蒸し器にクッキングシートを敷き、④を並べる。
- ⑥ フライパンに⑤を入れ、器の1/3まで水を注ぐ。
- ⑦ 強火にかけ、沸騰したら蓋をずらし中火で5-10分蒸す。
- ⑧ Aを合わせる。
- ⑨ もやしを茹で、人参は細切りし、レンジで1-2分加熱する。
- ⑩ ご飯の上に⑨を敷き、しゅうまいと⑧をかけ、ネギを散らす。

平成29年2・3月糖尿病教室予定表

日 程	演 題	担 当 医 師	医療スタッフの講義	担当部署
2月 3日(金)	糖尿病のことを知ろう	研修医	見直してみませんか?あなたの検査値	臨床検査科
2月10日(金)	糖尿病第6の合併症:歯周病	歯科口腔外科工藤佑喜先生	糖尿病に薬(ヤク)だつ話	薬 局
2月17日(金)	1型糖尿病と2型糖尿病	竹内信人薬剤師	糖尿病食は、健康食	食 養 科
3月 3日(金)	糖尿病の余病を見落とさないために	内科宮崎万純先生	合併症が出来てしまった時の食事	食 養 科
3月10日(金)	糖尿病を治療しよう	研修医	共に学ぼう、糖尿病	看 護 部
3月17日(金)	知つもらいたい動脈硬化の検査	久保田典夫臨床検査技師	お散歩から始めましょう	リハビリ

■ 時間:午後2時から3時まで

■ 場所:北棟(2階) 講堂

※日程、講義内容は変更になることもあります。

※血糖値測定(無料)は毎回行います。

※午後1時30分頃から2時まで

▼詳しくは、食養科までお尋ね下さい。

問い合わせ先

0895-25-1111(内線20010)
市立宇和島病院 食養科

【糖尿病患者会(パール会)】

開催時間:午後3時から3時30分まで

2月17日の担当:リハビリテーション科

3月17日の担当:食養科

※糖尿病療養指導士のスタッフが担当いたします。

発行/市立宇和島病院広報委員会

住所/〒798-8510 宇和島市御殿町1-1

TEL/0895-25-1111 FAX/0895-25-5334